

35 華岡流の図説書

真柳 誠

最近、華岡流の治療図説を載せた書を北里大学白金図書館で購入した。内題を『春林軒奇患図』、外題を『花岡経験奇患図』と記す上下二冊、および整骨と繙帯の図説を載せる無題の付録一冊からなる。筆写者、筆写年等の記入や蔵書印記はなく、「西肥唐津 小林蔵書」の墨筆のみあるが、『華岡青洲先生及其外科』『医聖華岡青洲』の門人録に小林姓の人物はみえない。

この書を順天堂大学図書館山崎文庫所蔵の文政元年（一八一八）野村鄂写『外科治術図説』（『図録日本医事文化史料集成』第二巻に「外科手術図巻」として収載）と比較すると、絵図の数は相当に多い。しかし本書には天保、嘉永、安政、文久の年間における治験図説もあるので、青洲の春林軒時代のほかに南洋の大坂合水堂時代の治験が

混在している。

本書三冊の画筆は同一で、かなり達者であるが、説明文は山崎文庫本といささか出入がある。そこで無題も多々あるが、全絵図の病名等と術名を以下に摘録する。

『春林軒奇患図』上冊三七葉七三圖

肉瘤、同前、同前、血瘤、肉瘤、同前、血瘤、粉留
（青洲の図像がある）、血痣、其二、火傷、同前、其二、
耳瘤、虫胞、肩風、走馬下疳、病名なし、口痔、病
名なし、血痣、舌疔、骨瘤、肉瘤、眼胞菌毒、同前、
骨瘤、耳瘤、軟骨瘤、六指、病名なし、肉瘤、肩風、
反花、其二、出血、反鼻咬傷、其二、反花、眼胞菌
毒、同前、病名なし、脳後発、乳癌、敗液流注、頑
肉、反花、其二、脱疽状腐肉、其二、血瘤、脱疽、
其二、骨瘤、反花、同前、無題、対口瘡、無題、病
名なし、無題、無題、無題、頑肉、無題其三、
脱疽、其二、欠唇、其二、其三、同前、反花。

『春林軒奇患図』下冊三三葉六六圖

大包茎、其二、上顎瘍、其二、肉瘤、其二、無題、陰
瘤、其二、無題（乳癌）、無題、其二、粉瘤、血瘤、

石淋、血瘤、鼻痔、病名なし、其二、鎖陰、血痣反花、無題、其二、無題、無題、無題、其二、其三、無題（乳癌）、其二、無題、無題、無題、其二、無題、陰瘤、同前、前垂ボボ、陰瘤、同前、病名なし、鎖陰、陰瘤、肉瘤、其二、石淋、龜頭反花、陰門反花、無題、肛門反花、会陰打撲、大斗疝、同前、同前、其二、其三、其四、其五、血痣反花、無題、無題、無題（手足四指）、無題（乳癌）、無題、其二、其三、無題。

『春林軒奇患図』付録一冊一八葉二七図（うち整骨一五図、縋帯二二図）

落架頤、態顧術、縋木綿態顧術、車転術第一法（風車術）、車転術第二法、車転術第三法、車転術第四法、円旋術、遊魚、燕尾術（騎竜術）、燕尾術（尺蠖術）、尺蠖術、螺旋術、騎竜術、躍魚術。

八裂、頭柱、頭卷、頭鼓、脊鼓、大袈裟、腹鼓、咽卷、腹卷、脊鼓前面、無題、脱肛。

このように本書三冊には計一六六図を載せるが、同類の写本は順天堂大山崎文庫に二本あり、他にも目録等で

以下の書が知られる。

華岡青洲氏および和歌山市立博物館蔵『治験図巻』（各一本）。片山寿氏蔵『整骨縋帯乳癌奇患図譜』。杏雨書屋蔵『奇患図』『整骨図・木棉図』『青洲先生整骨図説・縋帯図説・奥術活法図・産術図説』『華岡奇患図（同名別書各一冊）』。東大鸚軒文庫蔵『奇患録』『奇患図』。東北大狩野文庫蔵『華岡家奇患図』。京大富士川文庫蔵『華岡氏治術図識』。華岡乙平氏蔵『華岡家治験図鑑』。

華岡青洲氏蔵『整骨図巻』。京大富士川文庫蔵『青洲先生卷木綿之図・青洲華岡先生整骨法図説』。東洋文庫（藤井文庫）蔵『青洲先生卷木棉整骨図』『青洲縛帯図』。和歌山県立医大蔵『青洲先生整骨法図説』。

また、乳癌の図説書も一〇点以上知られるが、それらについては割愛する。

（北里研究所東洋医学総合研究所・医史学研究部）